調和型が生んだ上方文化

木津川氏

木津川　私は常々、文化力が衰弱するとその都市の格が落ちていくと考えています。文化力をどのように強めていくか。まずは上田先生に基調提案をお願いいたします。

上田　私は京都生まれですが、平成3年から大阪女子大学の学長を6年間務めるまで大阪を誤解しており、品格のないまちという先入観がありました。それがわずか6年で、大阪にはたくましいエネルギーを秘めた文化力があることを実感しました。本日の基調講演で山崎正和さんが『新摂津構想』を提唱していました。摂津の「津」は難波津であり、江戸時代まで事実上、日本の表玄関でした。確かに重要な観点ですが、私はむしろ京都・大阪を含む「上方」というくくりで文化をもう一度、見直したいと思います。象徴的な言い方ですが、上方の仏教の信仰は観音様です。観音信仰は女性原理、調和型です。関東は成田山新勝寺の本尊、不動明王信仰でこれは男性原理の対決型です。調和型の上方は難波津を中心に外国の文化を積極的に受け入れ、わが国独自の文化を創り出しました。インターナショナルな面もあり、いわば和魂漢才、和魂洋才の文化です。その原動力となったのが町人です。掛屋、蔵元などの大商人が誕生し自力で経済を展開しました。懐徳堂という町人による町人のための学校をつくり、素晴らしい人材を輩出しました。そんな大坂町人の文化力のなかで上方の芸能も育っていったのです。そこには自信と誇りを持てる、そして新しいことを創造する力がありました。それをもう一度、再発見する必要がある。古きを守るだけで大阪の伝統文化が存続していくかは疑問です。

上田氏

木津川　ご提案を受け、上方文化を守る、創るの2つの視点で考えていきたいと思います。それでは住吉大社の御田植神事について、八木先生よろしくお願いします。

芸能、催事の現状と課題

八木　現在、住吉大社では6月14日に御田植神事という行事が行われています。起源を遡れば1800余年前の神功皇后の時代の伝承を持ち、住吉さんが現在の地に鎮座なさったときから関わりを持っています。歴史性が十分存在しているというのが1点。それから今、大阪市内のまちなかに田んぼがどれだけ残っているかということです。教科書で農業という産業があることは習いますが、具体的に知る人は少ないでしょう。子どもの田植え体験は今各地で行われていますが、稲刈りはほとんど機械でします。機械刈りではワラが出ません。苅田にワラを積み上げたものを「ツボケ」といいますが、このツボケからワラを取り、収穫を祝う亥の子祭に使う、畳職人がワラ芯に使うなど利用されてきました。ツボケは手刈りをしない限り存在しません。そこで住吉さんでは、田んぼの代かきから、水を張り田植えをし、夏には畔に蛍が飛び、秋の刈り入れ、10月17日は宝之市神事を行って豊作に感謝し、ツボケをつくる。そんな一連の農耕行事が見えるように、御田植神事を復元していきたいと考えています。それが大阪のまちなかで伝統ある農耕文化を守っていく一つの方法であり、子どもたちに伝えていくべきではないかと思います。

木津川　御田植神事は大阪も古代から稲作農耕民族であった証。失ってはならない原点だということですね。次に宝恵駕籠について坂口さん、お願いします。

阪口　今宮神社、十日戎の宝恵駕籠の起源は江戸時代の宝永年間（1704～1711）ともいわれています。明治の中頃から花街が誘客手段の一つとして、お昼はお迎え籠と称して芸者衆が10丁ほど連ねてお参りし、夜に福笹をまちへ配って回りました。最盛期の昭和13年頃はミナミに芸者衆が約3000人おり、30丁ほど連ねた時代もあったそうです。戦後、社会情勢の変化から花街だけでなく市民参加のお祭りにしていこうと、昭和41年にプロジェクトを立ち上げ、福娘の募集や夏の子ども戎などいろんな行事をこしらえていきました。今宮さん、住吉さん、天神祭などでは花街が受け持つ年中行事があります。それを守っていくために昭和58年、司馬遼太郎先生らのご発案で「上方文化芸能協会」が発足しました。それでもだんだん芸者数も減り、今は芸者が乗る籠は1丁、歌舞伎や文楽の方、野球選手の方々にも乗ってもらい15丁ほどで続いています。お祭りいうのは賑やかであってこそ。その賑やかさをどうして保っていくかに苦労している状態でございます。

阪口氏

木津川　ご苦労がよくわかりました。続きまして中村翫雀さん、お願いします。

中村　歌舞伎という芸能は能、狂言と違ってあくまでも民衆の娯楽として始まったものです。明治時代には商業ベースに乗り、今は松竹株式会社が興行を行っています。興行的に成立しなければ当然、公演も芝居小屋も減ります。戦後、関西の歌舞伎が衰退したのも、お客様が入らなくなったからです。役者もみな東京へ移ってしまい悪循環でした。今は少し持ち直していますが、娯楽の種類や質は時代とともに変わっていきます。私は世の中からなくしたいものはなにかと聞かれればまず、テレビと答えます(笑)。もちろん不可能なことですが、テレビは劇場に出かけなくても家で見られる。それでも私は、歌舞伎も含め舞台芸術すべてに関して、生で見ることのおもしろさを皆さんはわかっていると

大正12年頃の宝恵駕籠行列